

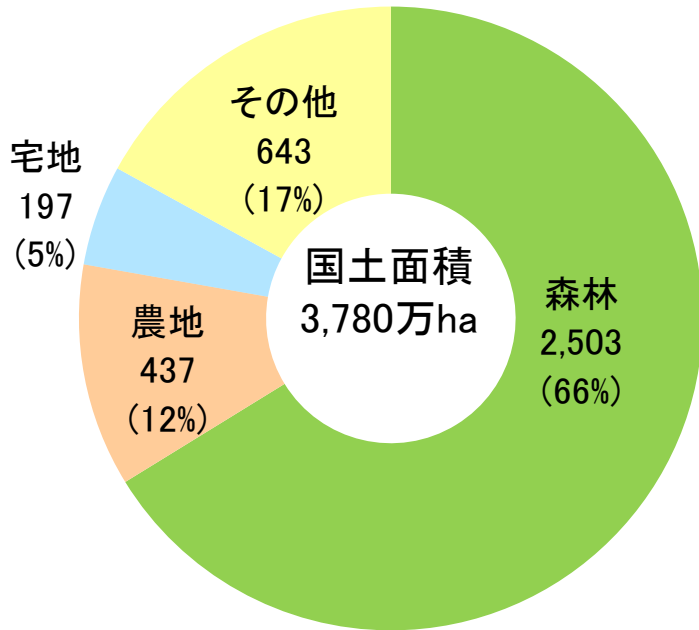
大船渡市林野火災の被災地における森林の概況

農林水産省林野庁

森林の多面的機能

- 我が国の森林面積は国土の3分の2に当たる約2,500万ha。
- 森林は、国土の保全、水源の涵養^{かん}、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材等の林産物供給などの多面的機能を有しており、その発揮を通じて国民生活に様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」。

■ 国土面積と森林面積の内訳



資料: 国土交通省「令和6年版土地白書」(国土面積は令和2年の数値)
 注1: 計の不一致は、四捨五入による。
 注2: 林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。

■ 森林の有する多面的機能

森林の多面的機能は、一部の貨幣評価できるものだけでも年間70兆円。

土砂災害防止／土壌保全

- ・表面侵食防止【28.3兆円】
- ・表層崩壊防止【8.4兆円】等



水源涵養^{かん}

- ・洪水緩和【6.5兆円】
- ・水資源貯留【8.7兆円】
- ・水質浄化【14.6兆円】等



保健・レクリエーション

- ・保養【2.3兆円】
- ・行楽、スポーツ、療養



地球環境保全

- ・二酸化炭素吸収【1.2兆円】
- ・化石燃料代替エネルギー【0.2兆円】



物質生産

- ・木材(建築材、燃料材等)
- ・食料(きのこ、山菜等) 等



生物多様性保全

- ・遺伝子保全
- ・生物種保全
- ・生態系保全



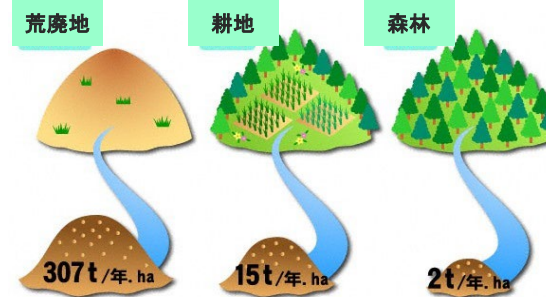
文化

- ・景観、風致
- ・教育
- ・宗教、祭礼
- ・芸術
- ・伝統文化
- ・地域の多様性



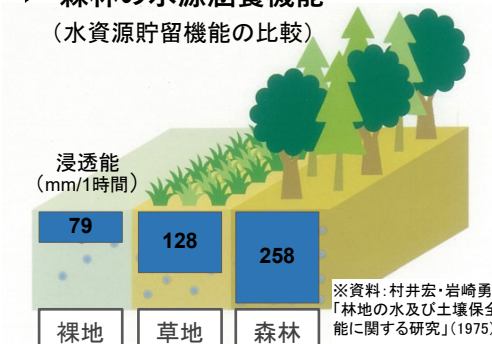
資料: 日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的機能の評価について」及び同関連付属資料(平成13年11月)
 注: []内の金額は、森林の多面的機能のうち、物理的な機能を中心に貨幣評価が可能な一部の機能について評価(年間)したもの。
 いずれの評価方法も、一定の仮定の範囲内における数字であり、その適用に当たっては注意が必要。

▶ 森林の国土保全機能(流出土砂量の比較)



※資料: 丸山岩三「森林水文」実践林業大学(1970)

▶ 森林の水源涵養機能^{かん}(水資源貯留機能の比較)

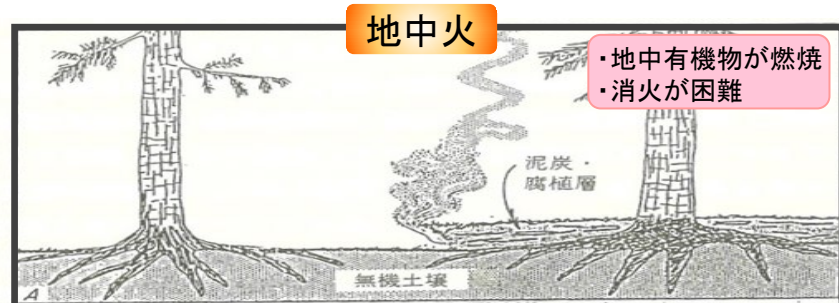


※資料: 村井宏・岩崎勇作「林地の水及び土壌保全機能に関する研究」(1975)

林野火災の種類と発生しやすい森林

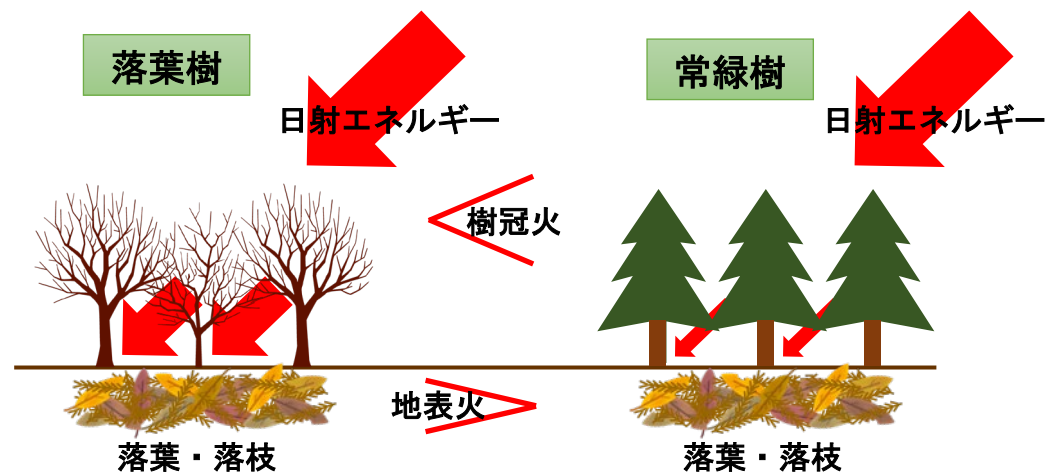
- 我が国の林野火災においては地表火（ちひょうか）が多いが、樹冠火（じゅかんか）に拡大すると、被害面積が大きくなる可能性がある。

■ 林野火災の種類



林野弘済会「林野火災対策の解説」より作成

■ 林野火災の種類と樹木の関係



- 我が国は冬場に空気が乾燥するため、林野火災のリスクが高まる。
- この時期に落葉し樹冠に隙間がある落葉樹は林床にある落葉落枝が乾燥しやすいので、林野火災の発生危険度が高いといえる。（地表火が起こる可能性）
- 一方、強風や傾斜などで火の勢いが増した場合、樹冠に葉や小枝が多い常緑樹の方が燃えやすいといえる。（樹冠火が起きやすい）

焼損区域内の森林の概況



※赤枠が延焼範囲

消防庁提供のR7年3月5日
6時時点のデータを元に作
成した範囲に係る、岩手県
から提供を受けた森林GIS
データにより作成

人工林 50%

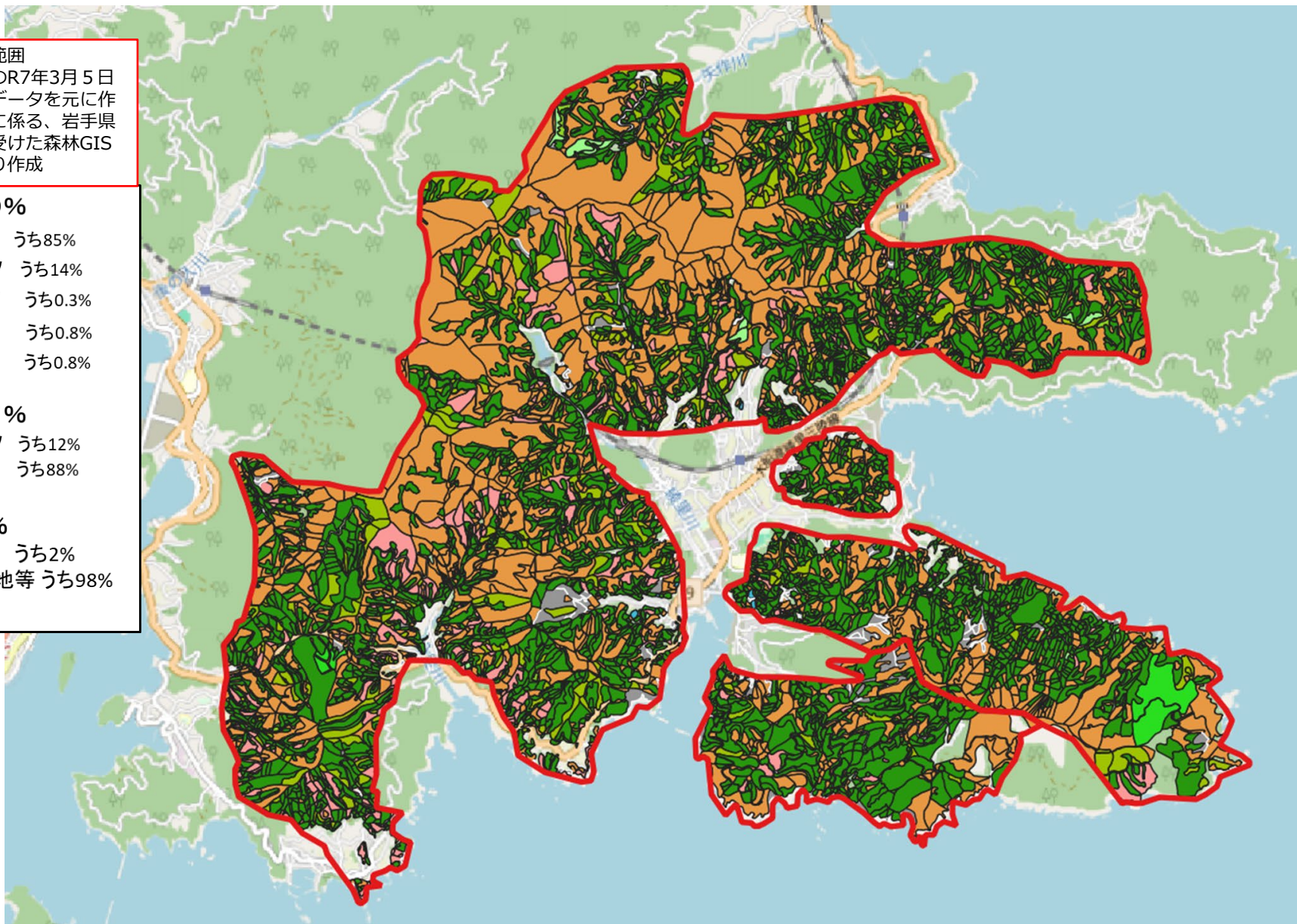
- スギ うち85%
- アカマツ うち14%
- カラマツ うち0.3%
- ヒノキ うち0.8%
- 広葉樹 うち0.8%

天然林 47%

- アカマツ うち12%
- 広葉樹 うち88%

その他 3%

- 竹林 うち2%
- 未立木地等 うち98%

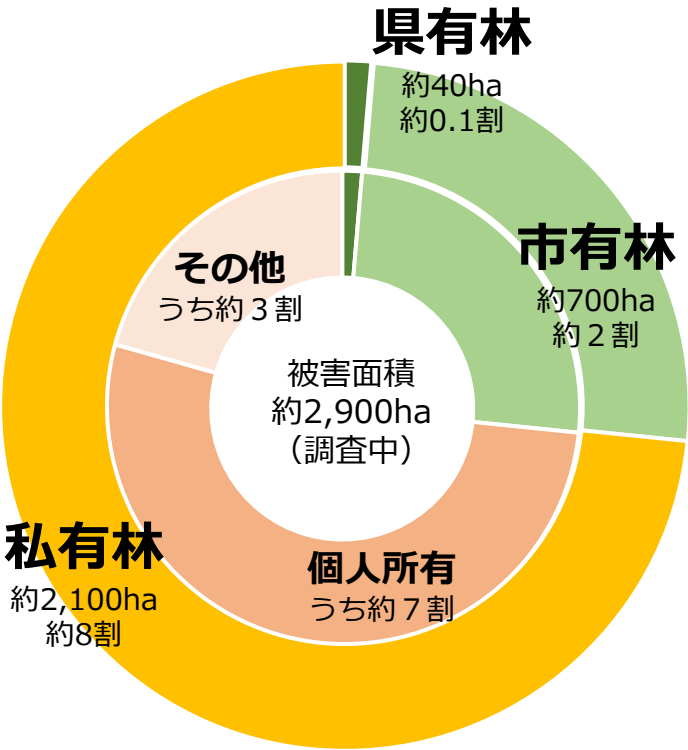
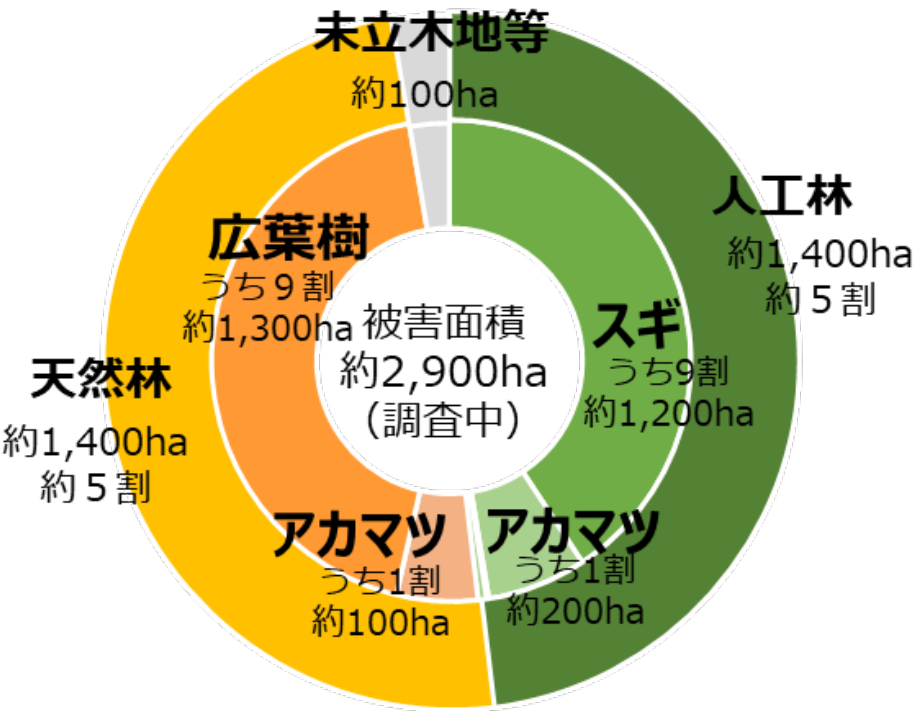


焼損区域内の森林の概況



■ 人工林・天然林別・樹種別面積とその割合

■ 所有形態別面積



※消防庁提供のR7年3月5日6時時点のデータを元に作成した範囲に係る、岩手県から提供を受けた森林GISデータにより集計。
被害面積はあくまで試算であり、所有者面積等について、実際とは異なる場合がある。